

多様性を認め合える東京へ！ 人権啓発イベント

# ヒューマンライツ・フェスタ東京2025

～インクルーシブシティ東京～

東京2020大会のレガシーである人権尊重の理念をさらに浸透させ、多様な人が共に支え合う真の共生社会「インクルーシブシティ東京」の実現を目指した、人権の大切さ・理解を深める人権啓発イベント「ヒューマンライツ・フェスタ東京2025」

「多様性を認め合える東京へ！」を訴える人権啓発イベント『ヒューマンライツ・フェスタ東京2025～インクルーシブシティ東京～』が、2025年11月から12月にかけて都内各地で開催された。同イベントは、人種・肌の色・性別・性的指向・障がいの有無など、あらゆる面での違いを肯定し受け入れ、互いに認め合う共生社会を育み人権尊重の機運を高めるイベントとして、2015年より行われている。

イベントは、11月8日に「イーアス高尾そよかぜ広場」、11月15日に「新宿駅西口広場イベントコーナー」、12月6日に「東京国際フォーラム」でそれぞれ開催。ステージプログラムやブース・パネル展示をはじめ、2025年は日本で初めて東京でデフリンピックが開催されたこともあり、デフリンピック選手によるトーク&デモンストレーションや、デフ射撃の体験会を実施するとともに、ボッチャや車いすバスケットボールといったユニバーサルスポーツの体験コーナー、誰もが楽しめるインクルーシブなあそび場や、ロービジョン体験メガネを用いた視覚障害体験など、子供から

大人まで楽しめる体験型プログラムが多数行われ、各会場とも大勢の人で賑わった。

新宿駅西口広場イベントコーナーでは、「村崎太郎さん トーク&猿まわし」のステージプログラムによる、日本の伝統芸能である猿まわしが披露されるとともに、村崎太郎さんによる同和問題についてのトークショーが行われた。

村崎太郎さんは、山口県光市出身で、1000年以上の歴史があった「猿まわし」が最後まで残っていた地。途絶えていた被差別部落の人々が受け継いできた日本の伝統芸能「猿まわし」を、「部落の誇る文化を復活させよう」と、村崎太郎さんの父が復活させ、伝承している。また、2008年に被差別部落出身であることを公表、以降、著書や講演活動を通じて同和問題への理解を訴えている。

トークショーでは、人権に対してさまざまな視点から持論を展開され、部落差別問題に対しては、「解放運動を通じて多くの人が世界の人権規約を守って闘ってきました。また、多くの人権問題もそうです。それにより権利（人権）を与えられたにも関わらず、日本の方々はいつ



同和問題について熱く語る村崎太郎氏

の間にか人権を大事にしない国民が増えてしまいました。だから、私はこうして人権を訴えているのです」と、語るとともに、かわいそうな人や障がいをもっての方を守ることだけが人権ではなく、それぞれみんなに人権はあると訴えました。そして、今の日本は根拠の無い差別を繰り返すことが多く、無知と無関心が差別や偏見を助長させていると警鐘した。終わりに、今一度、自分の人権について考えてみて下さいと訴え、トークショーを終了した。

人権、とりわけ同和問題という普遍的なテーマについて講演活動が続けている村崎太郎さんのトークショーは、聞いている人を引き付ける魅力があり、時には冗談も交えるが、しっかりと人権について訴え、被差別部落の解放運動についての歴史背景を交えての内容は、とても興味深いものだった。

今後も、東京都をはじめ、各自治体で大いに講演活動が行われ、同和問題について語って頂く機会が増える事が、同和問題解決へ向けた大きな啓発活動であることは、言うまでもない。



猿まわしが披露され、会場は大いに盛り上がった



さまざまな人権課題や障がい者スポーツのパネル展示も各会場に設置され、人権を広く呼びかけた



村崎太郎氏はじめ、著名人による人権メッセージがパネル展示された



村崎太郎氏のトークショーでは、多くの人が足を止めて参観する姿が見られた